

経済・金融フラッシュ

No.08-029 2008/5/30

鋳工業生産 08 年 4 月～電子部品・デバイスの在庫積み上がり幅が拡大

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

1. 生産指数は 2 ヶ月連続で低下

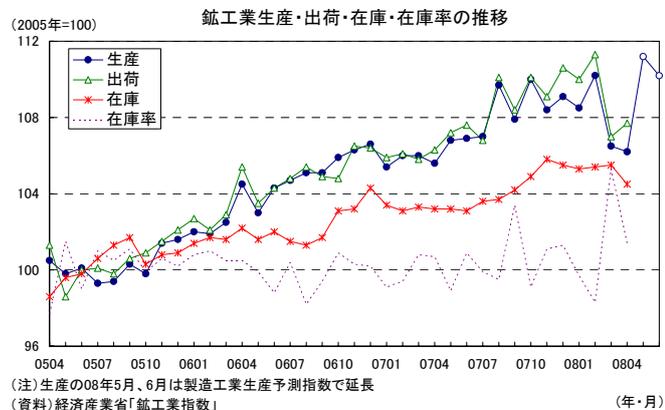
経済産業省が 5 月 30 日に公表した鋳工業指数によると、4 月の鋳工業生産指数は前月比 ▲0.3%と 2 ヶ月連続の低下となり、事前の市場予想通り（ロイター集計：前月比 ▲0.3%、当社予想は同 ▲1.0%）の結果となった。出荷指数は、前月比 0.7%と 2 ヶ月ぶりの上昇、在庫指数は前月比 ▲0.9%と 3 ヶ月ぶりの低下となった。3 月に前月比 7.1%の急上昇となった在庫率指数は前月比 ▲3.7%と大幅に低下した。

4 月の生産を業種別に見ると、3 月に大きく落ち込んだ一般機械、精密機械はその反動もあり高い伸びとなった（それぞれ 3 月：前月比 ▲5.1%→4 月：2.6%、3 月：前月比 ▲8.2%→4 月：同 7.9%）が、IT 関連財が多く含まれる電子部品・デバイスが前月比 ▲3.9%、情報通信機械が前月比 ▲7.6%の大幅低下となり、生産指数全体を大きく押し下げた。速報段階で公表される 16 業種中、9 業種が前月比で低下（7 業種が上昇）となった。

財別の出荷動向を見ると、建築基準法改正の影響で落ち込みが続いて

いた建設財は、1-3 月期に前期比 1.0%と 5 四半期ぶりにプラスとなった後、4 月も前月比 0.6%と持ち直しの動きが続いた。

設備投資のうち、機械投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は 08 年 1-3 月期に前期比 ▲3.9%の大幅低下となった後、4 月は前月比 1.3%の上昇となったが、1-3 月期に比べると 2.8%も低い水準にあり、前年比では ▲4.8%と 3 月の同 ▲3.1%からマイナス幅が拡大した。1-3 月期の GDP 統計の設備投資（1 次速報）は、前期比 ▲0.9%と 3 四半期ぶりの減少となったが、08 年度入り後も設備投資の低迷が続く可能性が高いことを示唆している。

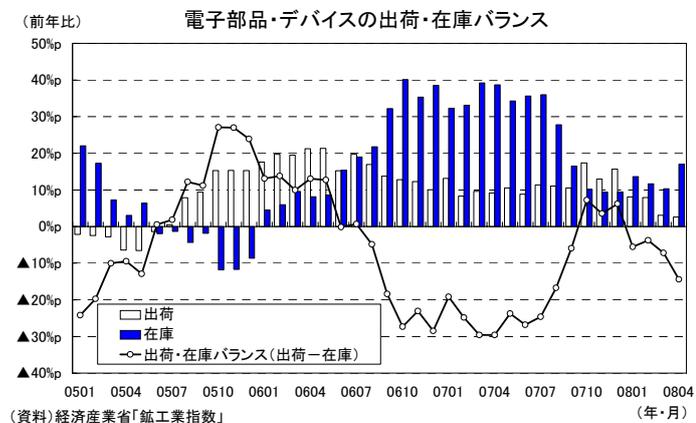


2. 電子部品・デバイスの出荷・在庫バランスが大きく悪化

電子部品・デバイスの在庫指数は前月比 5.8%と 2 ヶ月連続で大幅に上昇し、前年比では 17.0%と積み上がり幅が大きく拡大した (3 月:同 10.3%)。出荷指数は前月比▲3.4%と 2 ヶ月ぶりに低下し、前年比でも 2.6% (3 月:同 3.1%) と上昇幅が若干縮小した。出荷・在庫バランスは▲14.4%ポイントとなり、3 月の同▲7.2%ポイントからマイナス幅が大きく拡大した。

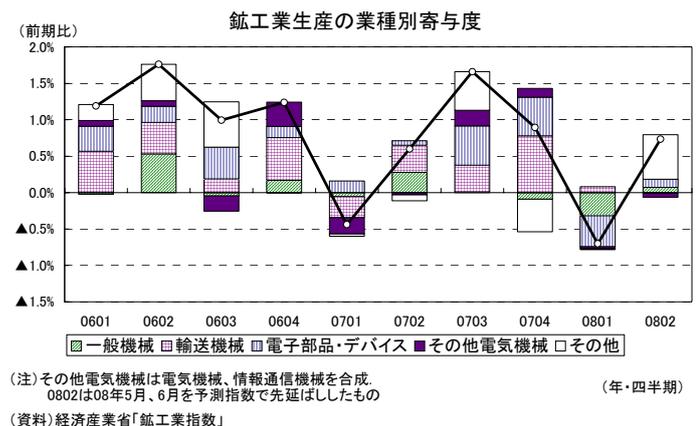
ここに来て IT 関連財の輸出が減速しているため、在庫調整が進展しにくい状況となっている。また、携帯電話、液晶テレビ、デジタルカメラなど IT 関連の最終製品が多く含まれる情報通信機械の出荷が大きく落ち込み、在庫が大幅に積み上がっている (3 月:前年比 27.5%) ことは、電子部品・デバイスの生産活動にとっては逆風と言える。

07 年後半には生産の牽引役となっていた電子部品・デバイスは、1-3 月期に前期比▲4.1%の大幅低下となったが、当面は生産の押し下げ要因となる可能性が高い。



製造工業生産予測指数は、5 月が前月比 4.7%、6 月が同▲0.9%となった。4 月の生産指数を 5 月、6 月の予測指数で先延ばしすると、4-6 月期の生産指数は前期比 0.7%の上昇となる。ただし、5 月の予測指数の高い伸びは、情報通信機械が前月比 14.2%と大幅な上昇を見込んでいることが大きく寄与しており、同業種の在庫積み上がりの状況を考えれば、このような高い伸びが実現する可能性は低いだろう。

5 月の鉱工業生産は予測指数の伸びを大きく下回る公算が大きく、4-6 月期が 2 四半期ぶりの増加となる可能性は現時点では必ずしも高いとは言えないだろう。



(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)